

新潟市歴史資料だより

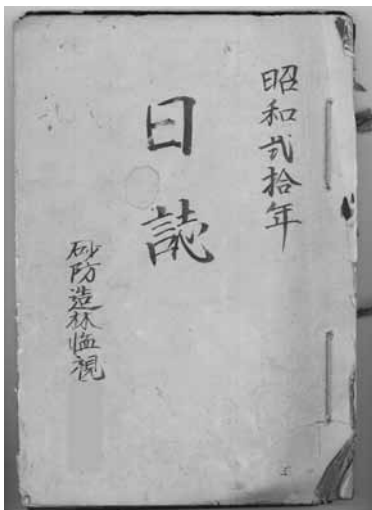
資料紹介

中央区建設課引継ぎ砂防事務所文書

江戸時代以来、新潟は海岸砂丘から吹き付ける飛砂の被害に悩まされてきました。新潟市には、かつて土木課砂防造林係砂防事務所（看守事務所）があり、砂防工事や砂防林の管理を行いました。中央区建設課引継ぎ砂防事務所文書は、砂防事務所に残されていた文書で、平成21（2009）年に歴史文化課に移管されました。砂防林を巡視した監視員の作業日誌、砂防林や周辺施設の図面、砂防工事の記録写真など、明治後期から昭和後期までの279点の資料が

あります。

右に掲載した文書は、昭和16（1941）年の監視員の服務心得です。監視員は、砂防林が荒らされないように毎日巡視し、日曜・祭日や海水浴の季節には特に念入りにすること。その結果を日誌に付けて上司の検閲を受けること。監視員の勤務時間や制服などについて定められています。左の文書は、昭和20（1945）年の監視員の日誌の表紙です。戦争末期から終戦直後にかけて、煙幕の材料として松葉が採取されたことや、食糧・燃料不足に苦しむ市民が砂防林を開発して畑を造ったり、砂防林を伐採したりしていたことなどが記されています。



砂防造林監視服務心得

昭和四年三月二十七日 昭和十六年四月一日
訓示第一号 訓示第二号改正

第一条 砂防造林監視ハ係員ノ指揮ヲ受ケ浜浦一帯砂防造林地ノ保護監視ニ従事スヘシ、市長ハ必要ニ応ジ隨時工事又ハ造林事業ノ担任ヲ命スルコトアルヘシ

第二条 砂防造林監視ハ各自日々一回以上砂防造林地ヲ巡視スヘシ但シ日曜祭日海水浴季節等入出多キ場合ニ特ニ巡視ヲ周密ニスヘシ

第三条 砂防造林監視ハ詰所ニ日誌ヲ備置キ、前条巡視ノ結果其ノ他ヲ詳記シ、上司ノ検閲ヲ受クヘシ

第四条 砂防造林監視ハ巡視中事故ヲ発見シ、又ハ予知シタルトキハ主務課長ニ即報シ指揮ヲ受クヘシ、但シ輕微ノ事項ハ此ノ限ニ在ラス

第五条 砂防造林監視ノ服務時間ヲ定ムルコト左ノ如シ、但シ時宜ニ依リ延長又ハ夜間勤務ヲ命スルコトアルヘシ

- 自三月一日 自午前七時三十分
- 至十月三十一日 至午後五時
- 自十一月一日 自午前八時
- 至二月末日 至午後四時三十分

砂防造林監視ハ毎朝詰所ニ出頭シ所定ノ出勤簿ニ自（以下欠損）

第六条 砂防造林監視服務中ハ必ず制服ヲ着用スヘシ、其ノ着用期間定ムルコト左ノ如シ

- 夏服 自毎年六月一日 至九月三十日
- 冬服 自毎年十月一日 至五月三十一日

第七条 砂防造林監視ハ毎月五日迄ニ毎月ノ経過ヲ別表ニ依リ市長ニ報告スヘシ、但シ定例ニ拠リ難キモノニ在リテハ、適宜上申又ハ報告スヘシ

第八条 砂防造林監視ハ詰所備付物品其ノ他ノ明細書ヲ作製シ常ニ其ノ異動ヲ整理スヘシ、備品ニシテ毀損又ハ亡失ノ場合ハ、事由ヲ具シ市長ニ上申スヘシ

附表

（以下略）

平成22年度事業概要

多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。その概要を紹介します。

■資料の公開

歴史資料整備室で古文書等の複製資料や図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図・土地台帳は、横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所3階）で公開しています。利用の際には、事前に歴史資料整備室へご連絡ください。

今年度の一般利用状況は、以下のとおりです。

区分	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	23	39	61	10	3	136
複写	36	34	66	10	24	170
掲載	7	0	8	0	17	32
計	66	73	135	20	44	338

(平成23年3月31日現在)

■資料の保存

①資料の整理

歴史資料整備室では、新潟市史編さんで収集した資料や寄贈資料等の整理・目録作成を行っています。今年度の資料整理状況は、以下のとおりです。

文書群名	区分	点数	主な内容
江南区酒屋 宿屋家文書	寄贈	80	新潟飛行場造成資料
那須塩原市 星野家文書	寄贈	38	新潟市街地写真
埼玉県白岡町 萩野家文書	寄贈	5	萩野左門資料
西蒲区間瀬 赤川家文書	寄贈	737	間瀬大工資料
中央区学校町通 土田家文書	寄贈	17	出征兵士写真
江南区大淵 媚山家文書	寄贈	8	明治期の投票所掲示

②資料のマイクロフィルム撮影及び複製本の作成

歴史的な文書等のマイクロフィルム撮影と焼付けによる複製本を作成しています。今年度の撮影フィルム本数と複製本冊数は以下のとおりです。

文書群名	資料点数	フィルム本数	複製本冊数	時代
北区 豊栄市役所文書	384	25	166	江戸～昭和
北区 〃 (木崎支所文書)	165	34	212	明治～昭和

■土地登記申請書（副本）の整理

横越公文書分類センターでは、資産税課所管の土地登記申請書（副本）の整理を行いました。今年度は文書箱256箱分の整理・目録作成を行いました。

■資料の調査・収集

①資料所在調査

平成17年度から、合併市町村の主な民間所蔵資料の現状確認調査を実施しています。今年度は岩室・巻・旧新潟地区で5か所の調査を行いました。

②歴史公文書の引き継ぎ

平成6年度から、廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別し、歴史公文書として引き継いで保存しています。今年度は579点、文書箱にして51箱を引き継ぎました。

■『新・新潟歴史双書6 新潟砂丘』の刊行

「新・新潟歴史双書」の6冊目として、『新潟砂丘』を刊行しました。

越後平野の前面には日本屈指の大砂丘・新潟砂丘が連なっています。本書は、新潟砂丘とその周辺に暮らす人々とのかかわりの歴史を記したものです。

市歴史博物館（みなとぴあ）と市内の一部書店で4月下旬から販売する予定です。

・四六判、約140ページ

■「いのち・愛・人権」新潟展

1月26日～2月1日に新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）で開催された標記パネル展において、一部のパネルの製作と展示に参加しました。期間中の来場者数は約2,800名でした。

■歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

10月7・14・28日、11月4日に、新潟市生涯学習センター（クロスパル）で講座「古資料が語る新潟の歴史」を開催し、76名の方々からご参加いただきました。各回の講義名と講師は以下のとおりです。

日程	講義名	講師
10/7	越後と都を結ぶ古代の道	新潟県立歴史博物館 浅井勝利
	平安時代の越後国の災害記事を読む	歴史文化課 相澤 央
10/14	越後にもあった川中島の合戦	長岡工業高等専門学校 田中 聡
	絵図・地図で見る信濃川・阿賀野川河口の変化	歴史文化課 福田仁史
10/28	慶応4年長岡領巻・曾根地方世直し一揆の史料を読む	元県立新潟商業高等学校 松永克男
	古文書が語る新潟町の火災	歴史文化課 小林吉男
11/4	身近に歴史をたずねる～書状の姿100年の変遷～	新潟県立文書館 本井晴信
	明治40年越後鉄道株式会社設立趣意書を読む	歴史文化課 金子正雄

■文書館整備検討委員会の設置と開催

本市の歴史的文書や歴史公文書を調査収集・保存公開する文書館のあり方について検討する、文書館整備検討委員会が設置されました。委員は市民（公募委員）のほか、学識経験者など6名で構成され、今年度は委員会を2回開催しました。委員の構成と会議内容は右のとおりです。



文書館整備検討委員会の様子

①委員の構成

区分	氏名	所属等
委員長	本間 恂一	新潟市文化財保護審議会会長
委員	伊藤 善允	新潟郷土史研究会会長
委員	小野 民裕	公募委員
委員	金森 敦子	ノンフィクション作家
委員	下井 康史	新潟大学大学院実務法学研究科教授
委員	杉本 道秋	公募委員
幹事	新潟市総務部総務課長、同総務部 IT 推進課長、同江南区副区長（総務課長）、同中央図書館サービス課長	
事務局	新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課	

（公募委員2名は公募委員選考委員会で、応募者7名の中から作文審査により選考）

②会議の経過・内容

回	日程	主な会議内容
第1回	10月27日	委員長の選出 文書館の基本機能及び公文書管理と文書館の関係 1) 委員会の趣旨とこれまでの経緯等について 2) 素案の提示 3) 検討事項
第2回	2月14日	文書館の基本機能及び公文書管理と文書館の関係 -2- 1) 公文書の引き継ぎについて 2) 長期保存文書の評価・選別作業と基準について 3) 文書館の資料の概要 4) 新潟市歴史的な文書等目録検索システムの概要

歴史文化施設紹介

—澤将監の館—

西蒲区打越にある「澤将監^{さわしょうげん}の館」は、村上藩打越組の大庄屋・澤家の邸宅を、現存する家相図を基に復元した施設で、平成6（1994）年に開館しました。約9,000平方メートルの敷地に、表門・主屋・土蔵などの建物が復元され、往時の大庄屋の権勢がうかがえます。

澤将監は澤家の先祖で、甲斐^{かい}の戦国武将武田信玄に仕え、武田氏滅亡後の慶長17（1612）年に打越村に移住したと伝えられます。敷地内には中之口歴史資料館が併設されており、澤家に伝えられた古文書や、中之口地区ゆかりの品々が展示されています。

〈案内〉

- ・開館時間：午前9時～午後4時30分
- ・休館日：月曜、祝祭日の翌日、12/28～1/3
- ・入館料：大人300円、高校生150円、中学生以下は無料。（先人館との共通券は、大人400円、高校生200円）
- ・所在地：新潟市西蒲区打越甲434番地
- ・電話：025-375-1300
- ・交通：北陸自動車道巻潟東ICから車で5分



表門

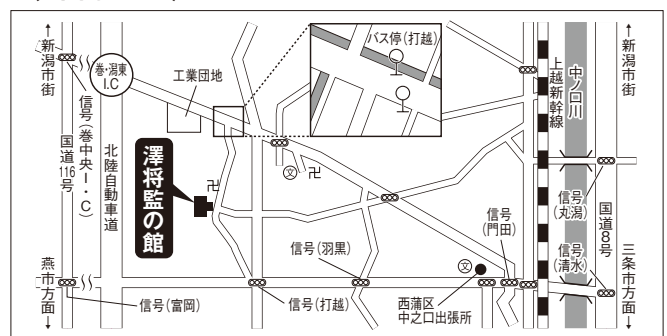


主屋



大広間

〈案内略図〉



写真紹介

新日和山の盛衰

右に掲載した3枚の写真は、西船見町の日和山展望台の海岸側にかつてあった建物と石碑の写真です。このあたりは、明治時代から昭和にかけて、多くの人が訪れる新潟の観光スポットでした。

明治13(1880)年の大火で東堀通十三番町にあった日和山の船見櫓やぐらなどが焼失しました。翌年、そこから海岸側へ300メートルほど行った、現在の日和山展望台の海岸側の地に、新たに船見櫓が建てられ、新日和山と呼ばれました。元の日和山にも船見櫓が再建され、旧日和山と呼ばれました。

新日和山は、海岸に近くて標高も高いので眺望が良く、多くの人が訪れました。料理茶屋も数軒あり、魚料理や団子が評判でした。また、海辺に広がる砂浜には、春になると浜茶屋が建ち、浜遊山の人でにぎわいました。人気の観光地になった新日和山は、単に日和山とも呼ばれるようになりました。

しかし、大正末期ごろから海岸決壊が進み、昭和前期には、海岸側は崖になりました。料理茶屋は営業を止め、建物は取り壊されました。右に掲載した建物や石碑があった場所も、決壊で失われました。

写真1 大正期の新日和山の絵はがきです。中央右側にある船見櫓を挟んで、2階建てや3階建ての料理茶屋が建っています。たくさんの人でにぎわっており、新日和山の盛況ぶりがうかがえます。

写真2 新日和山の海岸側の縁にあった五角形屋根のあずま屋で撮影された子どもの写真です。大正期のものと思われます。あずま屋の向こうには砂浜と海が広がっています。広大な海を背景にしたこのあずま屋は記念写真の撮影ポイントで、新日和山の絵はがきの定番でした。

写真3 料理茶屋の北東側に建てられた東宮御野立記念碑です。昭和前期の写真と思われます。大正5(1916)年、皇太子(後の昭和天皇)が新日和山を訪れました。碑はこれを記念して大正13年に建てられました。



写真1 大正期の新日和山



写真2 五角形屋根のあずま屋

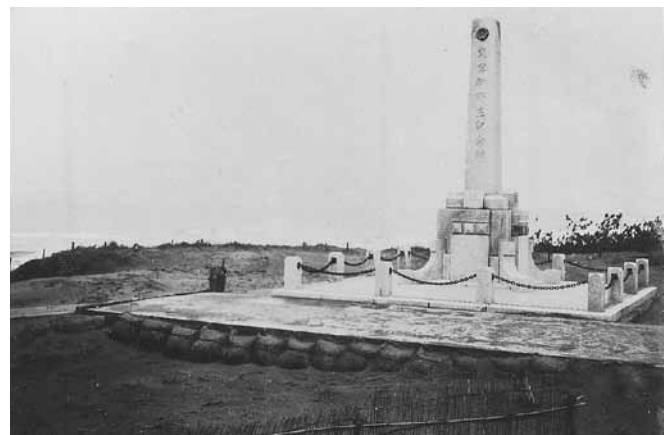


写真3 東宮御野立記念碑

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、ご連絡ください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市文化観光・スポーツ部
歴史文化課(担当:歴史資料整備室)
〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425-9
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp